

令和 8 年度ふくしま創生・人口戦略の取組状況について

令和 8 年 9 月 9 日
ふくしま創生・人口戦略有識者会議
(事務局：復興・総合計画課)

令和8年度「ふくしま創生・人口戦略」の進め方

○「ふくしま創生総合戦略(R7～R12)」の下、2年目となる「ふくしま共創チーム」を中心に、県民や市町村、企業、団体、女性・若者などあらゆる方々と「連携・共創」し、「地域特性」を最大限に引き出しながら効果的な施策を展開していく。

令和8年度の進め方

1. オール県庁

2. オール福島

○若者の声やデータの活用

: 「ふくしま創生・人口戦略WG」の下、地方振興局も含め、全庁的に連携して事業執行、今後必要な施策を検討、推進する。

: 2年目を迎える「ふくしま共創チーム」の活動を通して、県全体で地方創生・人口減少対策に連携して取り組む。

: 令和7年度「人口減少対策に係るデータ分析」の結果を踏まえ、**首都圏や近隣県に転出した若年層の転出要因等の深掘り**を行う。

1. オール県庁

「庁内の推進体制」

4月開催

ふくしま創生・人口戦略本部会議

(本部長: 知事、 構成員: 各部長・振興局長)

ふくしま創生・人口戦略WG【50課室+7地方振興局】

(座長: 復興・総合計画課長)

戦略重点プロジェクト

ひと・暮らしPT

しごとPT

人の流れPT

①「ふくしまプライド。」醸成

②持続可能な地域づくり

③職場変革

④働く場の創出

⑤稼ぐ力向上

⑥若者に伝わる! 情報発信強化

⑦ふくしまのつながりづくり(関係人口拡大)

地方振興局連携PT(地方振興局+関係課)

人口減少対策加速化事業(各地方振興局)

○ 地方振興局が「地域ならではの」強みを生かし、あらゆる主体と連携・共創しながら人口減少対策に取り組む。

解像度UP!

若者の声やデータの活用

「若者の声」

若者座談会

8月実施

○ 本県出身の大学生・社会人が参加する座談会を県内3地域で開催し、リアルな若者の声を聴取する。

「データの利活用」

(1)首都圏・近隣県在住者アンケート

6～7月実施

○ 令和7年度に実施した「人口減少対策に係るデータ分析」の結果を踏まえ、首都圏や近隣県の若年層の県外転出理由を収集・分析

(2)データカタログサイト

3月公開

○ 公表されている県・市町村データを一元的に整理・集約し、分析可能な形で公開するデータカタログサイトを構築。

○ データ収集・分析に要する時間を削減し、政策立案の質の向上につなげる。

2. オール福島

「ふくしま共創チーム」

7～8月

(1)学生企業等訪問

○ 県内3地域の企業等を学生が個別に訪問。

○ 収集した課題等をワーキングチームで議論。

(2)ワーキングチーム、全体会

WT: 9～11月 全体会: 2月

○ 大学生を中心に市町村、企業、団体等とチームを結成。課題を把握し、必要な対策を検討。

○ 2年目は県外大学生等の視点も加え、より深く課題を把握。

(3)ふくしま連携・共創推進補助金

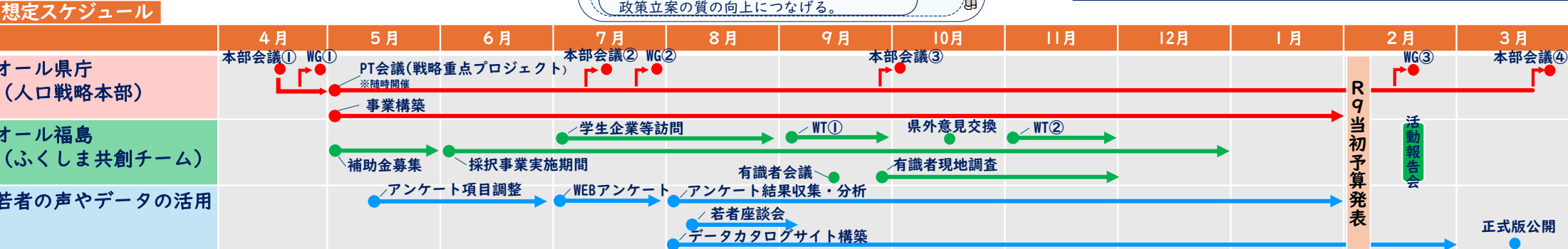
○ 人口減少対策につながる活動を行う企業を後押しするための補助金を新設。

※ ふくしま共創チームの活動等について広報を実施(随時)

ふくしま創生・人口戦略有識者会議

9月頃開催

○ 産官学金労言士の幅広い意見や、女性・若者の視点を取り入れ「ふくしま創生総合戦略」に基づく取組の評価や助言をいただく。



本庁7つの戦略重点プロジェクト

ひと・暮らしPT

①「ふくしまプライド。」

醸成プロジェクト

新設

(こども・生環・文スポ・教育ほか)

性別、国籍、年齢などに関わらず、福島県に住む誰もが、地域に誇りと愛着を持ち、その力を地域で発揮することができる人材育成策について議論し、部局連携で取り組む。

②「持続可能な地域づくり」

新設

プロジェクト

(総務・危機・企画・土木・保福ほか)

人口減少下でも持続可能な地域づくりを行えるよう、空き家の活用、DX化、小さな拠点づくり、住まいへの支援など必要な対策について市町村と連携して議論し、部局連携で取り組む。



しごとPT

③「職場変革」プロジェクト

新設

(総務・商工ほか)

産業別で令和の時代にふさわしい職場変革に向けた支援方策について議論し、部局連携で取り組む。



④「働く場の創出」プロジェクト

(商工・農林・観光ほか)

産業別で県内企業等の成長、新たな企業の誘致、新規の起業・創業支援方策について議論し、部局連携で取り組む。

⑤「稼ぐ力」向上プロジェクト

新設

(商工・農林・観光ほか)

産業別で県内企業等の生産性向上等の支援方策について議論し、部局連携で取り組む。



人の流れPT

⑥「若者に伝わる！情報

新設

発信強化」プロジェクト

(総務・企画・保福ほか)

本県に関係のある大学生や若手社会人を始めとした若者をターゲットに、観光交流、移住・定住、子育て支援などの情報発信強化方策を議論し、部局連携で取り組む。



⑦「ふくしまとのつながりづくり

(関係人口拡大)」プロジェクト

(企画・観光ほか)

関係人口となり得る「個人」と「企業」に対し、どのように情報発信し、福島とつながる体験等の機会を創出していくのか議論し、部局連携で取り組む。



ふくしま共創チーム

ふくしま共創チームの概要

県では、人口減少対策を共に考え、共に挑戦するための連携基盤として「**ふくしま共創チーム**」を令和7年7月に設立。2年目となる今年度は、若い世代の視点から「**ふくしまの宝**」である福島の企業や地域の輝く取組を改めて調査し、若者に選ばれる福島になるために重要な視点を深掘りすることで、あらゆる主体の行動変容につなげていくため、ふくしま共創チームの下「**ふくしまプライド調査部**」の活動をスタートした。



ふくしま共創チーム

2026年9月1日現在 764団体

全体会



○企業・団体、マスコミ、金融機関、市町村、教育機関などで構成

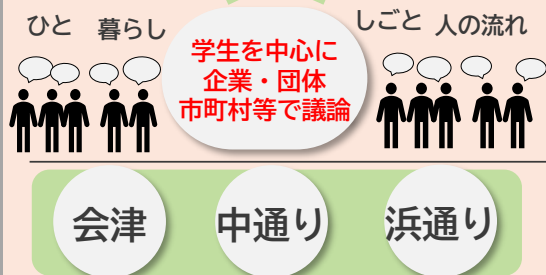
- ・人口減少対策の優良な取組等の情報共有
- ・共創チーム活動補助金の事例共有
- ・ふくしまプライド調査部の活動報告等

共有
・行動

会員

活動報告や事例発表等により、気づきを波及させ
それぞれの立場での行動変容を促す

ふくしまプライド調査部



気づきを共有

○県内大学生等が中心になり、各地域の企業・団体、市町村等と3地域で調査部を構成

- ・「輝く企業・地域調査」や「連携・共創ミーティング」の活動を通じて、ふくしまの宝を発見
- ・連携・共創して人口減少対策に取り組む重要な視点を学ぶ

オール福島

で持続可能な豊かなふくしまを目指す！

※ふくしま共創チームは、ふくしまSDGs推進プラットフォームを母体とした分科会です。

ふくしま共創チーム「ふくしまプライド調査部」のスケジュール



ふくしまプライド調査部

学生

会員
(企業・団体等)

8月～9月

輝く企業・地域調査（1回目）

〔3地域×2箇所〕

調査（1回目）の
実施日・調査先
(実施日順)

8月25日：中通り
AM:協三工業株式会社
PM:布沢集落・
布沢の環境を守る会

8月27日：会津
AM:株式会社シグマ
PM:合資会社喜多の華酒造場

9月1日：浜通り
AM:社会福祉法人飛鳥
PM:株式会社大和田測量設計

10月

輝く企業・地域調査（2回目）

〔3地域×2箇所〕

調査（2回目）の
実施予定日
(実施日順)

10月 6日：浜通り

10月14日：中通り

10月20日：会津

11月

連携・共創ミーティング

〔県内1箇所集合〕
※県外学生等も参加

1～2月

県R9 当初予算発表
全体会（活動報告会）
@中通り

輝く企業・地域調査(1回目)の実施状況について

8月25日～9月1日にかけて、人口減少下の浜通り・中通り・会津の各地域で輝き、今後の人口減少対策を考える上でモデルとなる取組を行う以下の6企業・地域の調査を実施した。

調査には、ふくしまプライド調査部（県内大学生等、企業・団体及び市町村の若手職員）及び各地域担当アドバイザーが参加した。

実施結果概要については別紙のとおり。また、今後10月には2回目の調査を実施する。

【福島市】
協三工業株式会社
(製造業)
オンリーワンの技術 企業

ひと しごと

【二本松市】
布沢集落・布沢の環境を守る会
(地域づくり)
棚田による地域振興 地域

暮らし 人の流れ

【喜多方市】
合資会社喜多の華酒造場
(酒造業)
女性社氏・Uターン 企業

ひと しごと 人の流れ

【広野町】
株式会社大和田測量設計
(測量業)
ドローン測量 企業

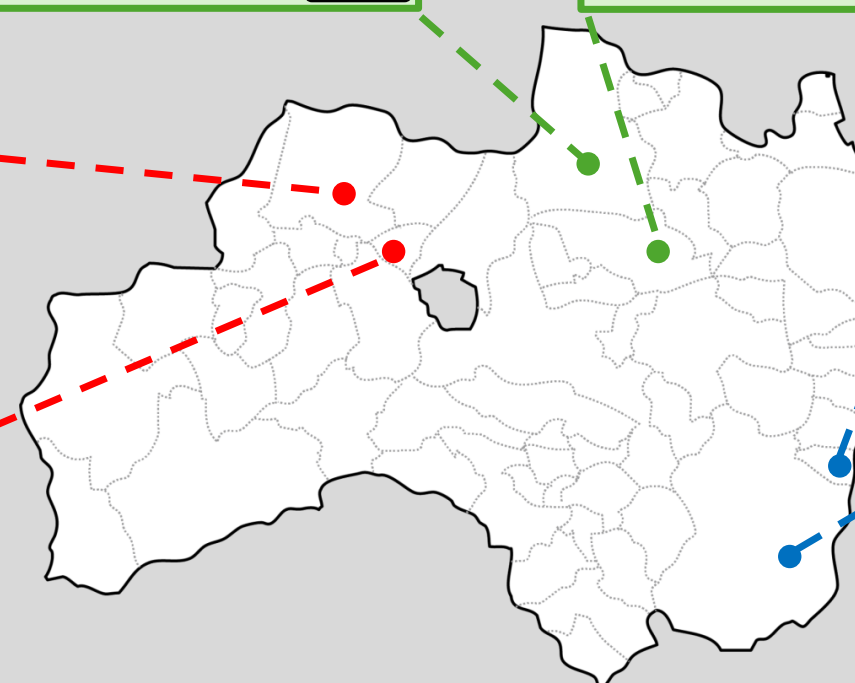
暮らし しごと

【磐梯町】
株式会社シグマ
(製造業)
世界を魅了する会津の技術 企業

暮らし しごと

【いわき市】
社会福祉法人 飛鳥
(サービス業)
外国人活躍 地域

ひと 暮らし 人の流れ



【結果概要】輝く企業・地域調査(1回目)中通り

実施日	令和8年8月25日(火)	参加者	計21名 福島大学 4名 市町村 1名 企業・団体 15名 アドバイザー 1名(平井太郎氏)
-----	--------------	-----	--

調査先

協三工業株式会社(福島市)

スケジュール

- 9:30 挨拶・自己紹介
- 9:35 概要説明
- 9:45 現地調査
 - ・工場
 - ・台湾機関車、入換動車
- 10:35 休憩
- 10:45 ヒアリング調査
- 11:20 終了



調査先

布沢集落・布沢の環境を守る会
(二本松市)

スケジュール

- 14:00 挨拶・自己紹介
- 14:05 概要説明
- 14:20 現地調査
 - ・布沢の棚田
 - ・ビオトープ
- 15:00 桑茶のふるまい
- 15:10 ヒアリング調査
- 15:40 終了



調査部の主な気づき

輝きと要因

- ・蒸気機関車製造の国内唯一の技術
- ・取引先トラブルを乗り越え、H17年から第二創業として社内一丸で取り組む
- ・60歳を超えても給与水準が変わらない技術力を評価する制度
- ・専務、総務課長をはじめとする女性活躍、女性のきめ細かさを検査チームで発揮

将来の課題

- ・素晴らしい技術、取組が県民に十分に伝わっていない
- ・国内市場の縮小、受注数減による技術継承

今後の展望

- ・県内企業として、原発廃炉作業にも関わりの技術で今以上に貢献したい

調査部の主な気づき

輝きと要因

- ・農林水産省「つなぐ棚田遺産」に認定される美しい自然環境
- ・棚田オーナー制度や田んぼの学校など棚田を核とした関係人口の創出
- ・地元NPO法人をハブに、農家民宿が連携して就農体験を受入れ、農地や空き家の紹介を行い、地域外からの新規就農へ
- ・集落連携による持続可能な地域づくり

将来の課題

- ・兼業ニーズもあるため、布沢にしながらオンラインで働くことができる環境整備
- ・新規就農者はいるが平均年齢は70歳であり地域の魅力を若者に発信する必要がある

今後の展望

- ・若者に地域の魅力を届けるとともに、地域内のIT化を進め、若者に選ばれる環境を整備

【結果概要】輝く企業・地域調査(1回目)会津

実施日

令和8年8月27日(木)

参加者

計 13名 会津大学 3名 企業・団体 7名
市町村 2名 アドバイザー 1名(藤井靖史氏)

調査先

株式会社シグマ(磐梯町)

スケジュール

9:30 挨拶・自己紹介
9:40 概要説明
10:10 現地調査
11:10 ヒアリング調査
11:40 終了
終了後、社員食堂にて昼食



調査部の主な気づき

輝きと要因

- ・ Made in Aizuのレンズが世界中で利用
- ・ 本社と工場が近く、攻めた設計が可能
- ・ 専門技術を活かせる開発現場を有し、地元大学からの就職者も多い
- ・ 細やかな作業も多く、工場の7割が女性職員であり、トイレは女性用を増設したり、改修工事をするなど職場環境を整備

将来の課題

- ・ 磐梯町をはじめ、会津地域における若者が住みたくなるまちづくり
- ・ 少人数で生産性を向上させる省力化と技術継承

今後の展望

- ・ 高卒採用にも力を入れ、平均年齢を下げつつ作業の自動化も進め、人口減少下に対応

調査先

合資会社喜多の華酒造場
(喜多方市)

スケジュール

13:30 挨拶・自己紹介
13:40 概要説明
14:10 現地調査
・ 酒蔵見学 30分
・ 試飲 15分
14:55 ヒアリング調査
15:30 終了



調査部の主な気づき

輝きと要因

- ・ 全国新酒鑑評会での金賞受賞蔵
- ・ 夏の酒蔵案内や冬の日本酒製造の見学、市内12蔵と連携したまち歩き型の飲酒イベントなど、日本酒を核とした関係人口創出
- ・ 米農家との顔の見える関係

将来の課題

- ・ 交通や宿泊施設を整備し、イベント時等の飲酒機会を取りこぼさないこと
- ・ IT化やAI活用、キャッシュレス決済の活用

今後の展望

- ・ 日本酒の種類(低アルコールなど)、製造量を増やし、輸出の体制づくり
- ・ 雇用創出や喜多方に帰りたい人を増やすための情報発信強化

【結果概要】輝く企業・地域調査(1回目)浜通り

実施日

令和8年9月1日(火)

参加者

計 17名 福島高専 3名 企業・団体 10名
市町村 3名 アドバイザー 1名(佐藤桃香氏)

調査先

社会福祉法人飛鳥(いわき市)

スケジュール

- 9:30 挨拶・自己紹介
- 9:40 概要説明
- 10:10 現地調査
 - ・コミュニケーションによる生活支援 15分
 - ・施設見学 15分
- 10:40 ヒアリング調査
- 11:30 終了



調査部の主な気づき

輝きと要因

- ・人口減少下で外国人材活躍(在籍22名)
- ・専門部署の海外人財事業室を立ち上げ、手続きや住居手配、買い物の生活面、言語や文化、資格取得の伴走など包括的に支援
- ・外国人材の雇用により、業務の標準化、日本人スタッフの成長にもつながった
- ・職場の雰囲気が明るくなった

将来の課題

- ・今後、国内で外国人材の取り合いに
- ・優良な受入環境を可視化し、企業を認証する制度を導入し、初期費用の補助等
- ・外国人との日常的な交流機会の創出

今後の展望

- ・行政、企業、学生などあらゆる主体がゆるやかにつながる共生社会の実現

調査先

株式会社大和田測量設計(広野町)

スケジュール

- 14:00 挨拶・自己紹介
- 14:10 概要説明
- ～移動(データセンター→本社)～
- 14:50 現地調査
 - ・女性パイロットによるドローン操縦
 - ・データセンターとのリアルタイム接続
- 15:30 ヒアリング調査
- 16:00 終了



調査部の主な気づき

輝きと要因

- ・ドローン等の先端技術を活用した省力化
- ・新しいものの好きの会長が2000年にGISを導入したことが取組のきっかけ
- ・研究機関や高等教育機関と連携した技術開発
- ・情報システム課を有し、測量後のデータ加工まで自社で行うことが可能で、顧客ニーズにきめ細かに対応

将来の課題

- ・測量業界は人材不足
- ・少人数でも対応できるシステム構築
- ・多くの方がドローン等の先端技術に触れる機会の創出

今後の展望

- ・測量の先端技術と蓄積したデータを活用し、震災後に残る放射線の課題解決に測量面から貢献したい

人口減少対策加速化事業

令和8年度 地方振興局 の取組

1 大学生×ふくしま県北魅力体験事業



・県北の暮らし・働き方を体験し、地域で活躍する方との交流機会を設ける体験ツアーを実施。
・体験ツアーの企画、運営には県内大学生が参画。

2 県北で進める！働き方改革促進事業



・商工会等と連携し、企業等への7か月程度の長期伴走支援を実施。成果報告会を開催し、企業に働き方改革の浸透を図る。

7 若者×企業キャリアリンク事業



・高校2年生を対象とした地元企業へのインターンを実施。
・企業情報やインターンの申込もできるWebサイトを構築しマッチングを支援。
・県外に進学した大学生等を対象に、企業の情報発信、交流会、アフターフォローまで一貫して支援する。

8 ゆるっとめぐり会津プロジェクト



・会津地域を中心とした男女の交流イベントを複数回実施。
・会津の魅力を一緒に感じることのできるコンテンツを盛り込み、男女の出会いの場を創出。

9 会津地域「つながるDX」推進事業



・会津大学やAICTと連携し、人口減少時代の自治体DXのモデルとなる取組を展開。
・市町村が抱える課題について、会津大学学生等と連携して解決を図る。

10 南会津「ワカモノ」ピッチ事業



・南会津地域の若者や女性が考える「人口減少対策」等に係る取組を募集し、ピッチイベントを開催。
・採択された優秀案を事業化し、新たな価値観の浸透や定着・還流の促進を図る。

11 コネクト・みなみあいづ！プロジェクト



・体験×宿泊のモデルコースの造成やドローン空撮コンテスト等の新鮮な体験による誘客を図る。
・「ふるさとワーキングホリデー」を活用し、若年層の関係人口創出と人手不足解消を目指す。

12 南会ドローン中学校



・操縦士の育成や国家ライセンス取得を支援。
・ドローンショーで過疎地域のイベントを応援し、理解醸成。
・広域連携会議で活用方を検討。

3 ケンチュワーク促進事業



・中高生を対象に、企業等と連携したライフキャリア教育を実施。大学生を対象に、ロールモデルとなる社会人との交流授業を実施。企業の課題や働き方を県外大学生が分析、提案し課題解決を図る。

4 県中地域ときめき出会い創出事業



・大学生のフィールドワークを誘致し、企業や市町村と連携して調査を行い、調査結果の地域への還元を図る。
・企業の若手社員を対象に業種を超えた出会い創出ツアーを開催する。

6 しらかわプライド醸成事業



・若者が地域の魅力について考えるワークショップ等を開催。県南地域の仕事体験ツアーを実施(小中学生向け)。
・県南の仕事の魅力を体験できる取組の開催(高校生向け)。

13 「相双にまた来たくなる」交流人口拡大事業



・「相馬野馬追」の体験や馬事文化を守る人々との交流を図り、誘客を促進。相双地域ならではの体験を通じて新しい旅の魅力を発信。
・メディアを通じた「あぶろま」の魅力発信と連動した周遊促進を実施。

14 相双地域人材確保支援事業



・相双管内の高校1年生を主な対象とした地元企業紹介イベント、県内大学生向けに見学会などの相双地域の企業を知る機会を提供。

15 「若者・女性に伝わる」企業の魅力発見・発信事業 いわき



・社内の雰囲気などを若者・女性の視点で伝えるSNS動画を作成、発信。若者・女性と企業が気軽に意見交換を行える機会を設ける。
・若者・女性に伝わる情報発信のノウハウを共有するセミナーを開催。

16 女性が輝く「いきいき わーく いわき」事業



・女性の就業状況や女性活躍に関する取組状況等について調査を実施。アンケート調査を踏まえ、専門家を派遣し、課題解決を支援。
・女性活躍推進セミナーを開催し、専門家派遣の成果等を企業に幅広く共有。

5 来て、関わって、働いて、しらかわ事業



・しらかわに特化した就職情報の発信などを実施し、「転職・仕事」を契機とした移住を促進。
・滞在型の短期就業を提供し、ファンづくりと継続的な関係人口の創出を図る。

令和9年度「戦略重点プロジェクト」及び 「人口減少対策加速化事業」の取組の方向性（たたき台）

令和9年度「戦略重点プロジェクト」及び「人口減少対策加速化事業」の取組の方向性（たたき台）

- 「ふくしま創生総合戦略」に掲げる「ひと・暮らし」「しごと」「人の流れ」の各分野において、部局連携のもと、戦略重点プロジェクト推進、地域における人口減少対策加速化のため、以下の取組について検討を進める。

ひと・暮らし

- 「ふくしまプライド。」醸成のためには、こども、女性、外国人など誰もが活躍できる社会環境整備が必要。こどもたちには、発達段階(年齢区分)に応じた**歴史・文化・スポーツ・自然体験**など**地域愛着形成に資する体験機会**を確保。女性も外国人も、職場や地域で交流が促進できる体制を構築。
- 特に教育の充実は喫緊の課題であり、地域探究活動の更なる推進、高校改革である「**F-N E.X.T.**」の実現に向けて全庁一体で対応。
- **持続可能な地域づくり**では、あらゆる分野の現状把握と将来予測を進める。集落の維持、人手不足に対応した取組について重点的に検討。

しごと

- 県内企業・事業所における職場変革に向け、「感働！ふくしま」プロジェクトを継続、**情報発信、就職マッチング、気づき・体験、魅力ある職場づくり**を部局連携して推進。
- 福島で若者・女性が活躍できる魅力的な職場を創出するため、「**ふくしま地域産業成長プラン**」に掲げる重点分野の産業振興・人材育成に資する取組を推進するとともに、**稼ぐ力の向上に向け、賃上げできる環境づくりのため中小企業に対する付加価値向上、AIや省力化投資等の生産性向上支援を継続強化。**

人の流れ

- 将来的なUターン移住の意識醸成にもつながるよう、引き続き、**若い年齢層への情報発信・働きかけを強化。「ふくしまポータル」の更なる有効活用。**
- **関係人口の創出・拡大に向け、受入体制が十分に整備されていない市町村もあるため、先進的な事例を共有するなど、全県的な受入体制の底上げを推進。**

地方振興局連携

- 「ひと・暮らし」「しごと」「人の流れ」の各分野において、**人口減少社会に適応していくことも意識して、それぞれの地域課題や特性を踏まえ、持続可能な地域づくりのため、様々な主体と「連携・共創」した大胆な取組を推進。**